

シングルレバー洗髪洗面混合栓施工説明書

一般地用

寒冷地用

ユーロディスク

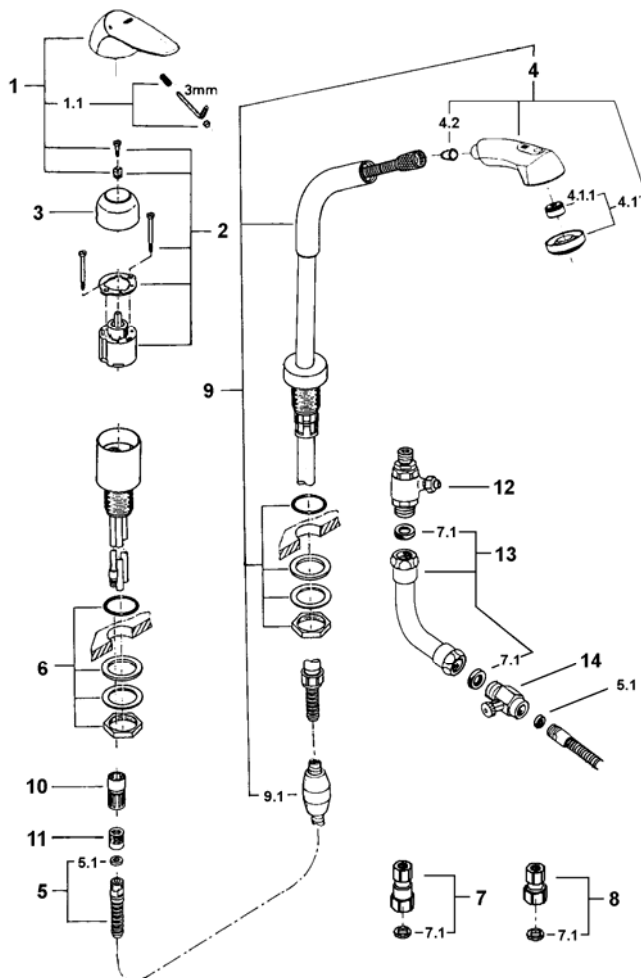
3 2 9 0 8

3 2 9 0 7

- 製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
 - この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証を致しかねますのでご注意ください。
 - 施工完了後、試験運転を行い、異常が無いことを確認するとともに、「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- また、この説明書は、お客様で保管頂くように依頼してください。

完 成 図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。



図番	名称
1	レバーセット
1.1	スクリューセット
2	セラミックカートリッジ
3	化粧カバー
4	スプレーヘッド
4.1	散水板セット
4.1.1	エアレーター(マウザー)
4.2	ストレーナー
5	ホース
5.1	ホースパッキン
6	締付セット
7	逆止弁アダプター
7.1	パッキン
8	接続アダプター
9	洗髪スプレーセット
9.1	おもり
10	カップリング
11	ホースアダプター
12	ホース逆止弁
13	水抜栓ホース
14	水抜栓

※カウンター穴あけ寸法は本体φ31～φ37、スプレーφ34～φ37で行ってください。カウンター厚30mm以下。

安全上の注意

施工前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠注意

湯水を逆に配管しないでください。

※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

寒冷地仕様の水抜き方法は、取扱説明書を参照ください。

※凍結破損で漏水し、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

施工完了後は、配管接続部分及び水栓から、水漏れの無いこと、レバーが閉じていることを確認してください。

※漏水で、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

使用条件

● 給水、給湯圧力

◇貯湯式温水器（ボイラー、電気温水器）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(0.07Mpa [0.7kgf/C m²])～(最高圧力0.74Mpa [7.5kgf/C m²])の範囲とします。

※給水・給湯圧力はできるだけ同圧になるようにしてください。

◇ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(A+0.07Mpa [0.7kgf/C m²])～(最高圧力0.74Mpa [7.5kgf/C m²])の範囲とします。

※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

※以上は下記の条件を想定して設定されて降ります。

レバーハンドルは全開です。

ガス給湯器との組合せ条件が最も悪い冬期条件（給水温度5℃、吐出温度40℃）によるものです。

給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。

ガス給湯器の温度調節は最高温度設定です。

◇給水圧力が0.74Mpa [7.5kgf/C m²]を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力に減圧してください。

- 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、必ず別途止水栓をご用意ください。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。
- 水栓下部を点検出来るように必ず点検窓を設けてください。

施工前の注意

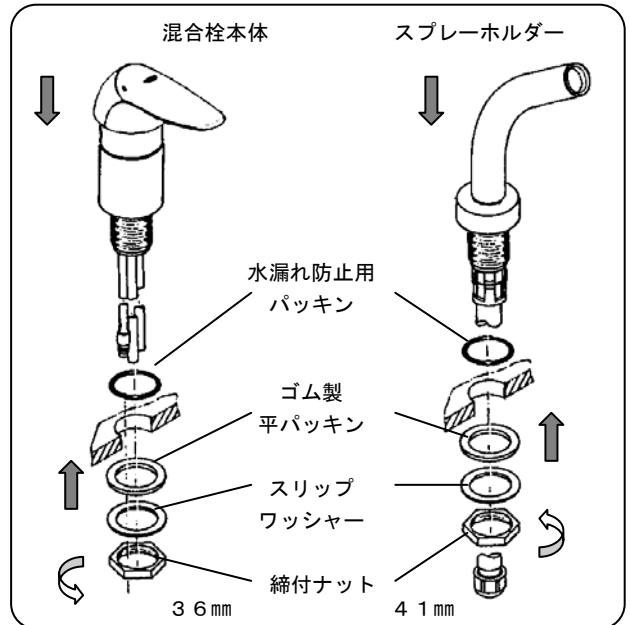
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。
- 給水は上水道に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。
- 必ず配管中の異物（ゴミ、砂等）を完全に洗い流してください。
- 寒冷地仕様は不凍栓等を設置した寒冷地仕様配管設備でないと使用できません。
- 配管接続部を隠ぺいしないでください。水切棚に取り付ける場合、必ず水受けを設けスラブへの防水を行ってください。
- 給水・給湯ホース緩み防止の為、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

施工手順

1. 本体、ホルダーの取り付け (図1参照)

- ①本体付属の水漏れ防止用パッキンだけを残して、本体締付部品を取り外して下さい。
- ②本体をカウンター上部から取り付け穴に挿入します。給水・給湯管が正面に向くように図1の通りセットしカウンターうらからゴム製平パッキン、スリップワッシャーを挿入し、締付ナットで締め付けてください。
※ゴム製平パッキンとスリップワッシャーがきちんと重なっていること。本体水漏れ防止用パッキンが取り付け穴に落ち込んでいないことを確認してください。水栓を固定する際、取り付け穴が水栓本体の中心にくるように取り付けてください。
※水栓本体が確実に固定されていることを確認してください。動く場合は、再度締付ナットを締め直して下さい。
※固定には別売(市販品)のベシレンチ等を使用して確実に締め付けてください。

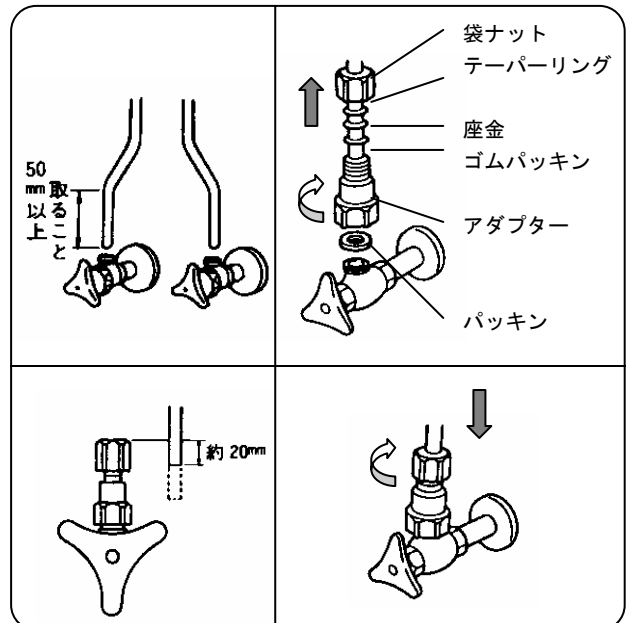
図1



2. 給水・給湯管の接続 (図2参照)

- ①本体の給水・給湯パイプを図2の通り、止水栓の取り出し芯に合うように曲げてください。
※止水栓より50mm以内では、パイプを曲げないでください。
※パイプはなるべくゆるやかに曲げ、垂直部分が長くなるようにしてください。
※パイプがつぶれないように注意してください。
- ②止水栓に同梱の逆止弁(寒冷地仕様はアダプター)を仮固定した後、給水・給湯パイプの差込代20mmを確保し、余った部分をパイプカッター等で切断してください。またバリが出来た場合は必ず取り除いてください。
- ③給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、座金、ゴムパッキンの順に入れて、逆止弁(寒冷地仕様はアダプター)に差し込んでください。
- ④仮固定しておいた逆止弁(寒冷地仕様はアダプター)を止水栓にネジ込み、確実に固定してください。
- ⑤最後に、給水・給湯パイプを逆止弁(寒冷地仕様はアダプター)にしっかり差し込み、袋ナットをスパナ等で完全に締め付けてください。
※締付は、200~300kgf・cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。

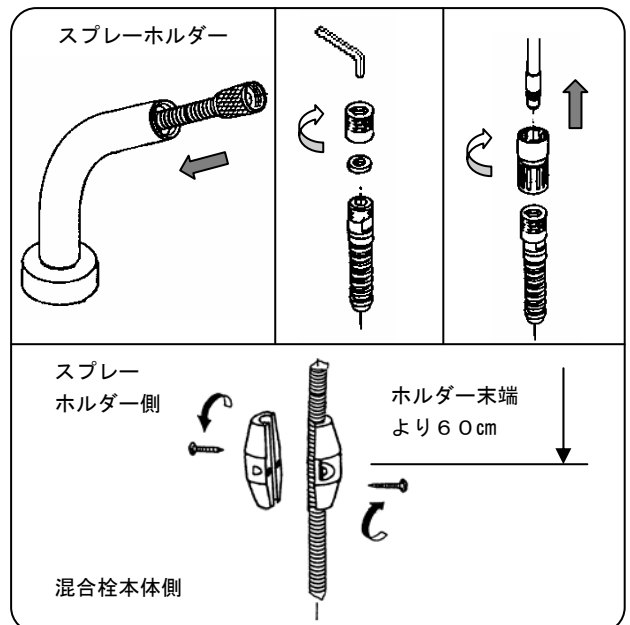
図2



3. ホースの取り付け (図3・5参照)

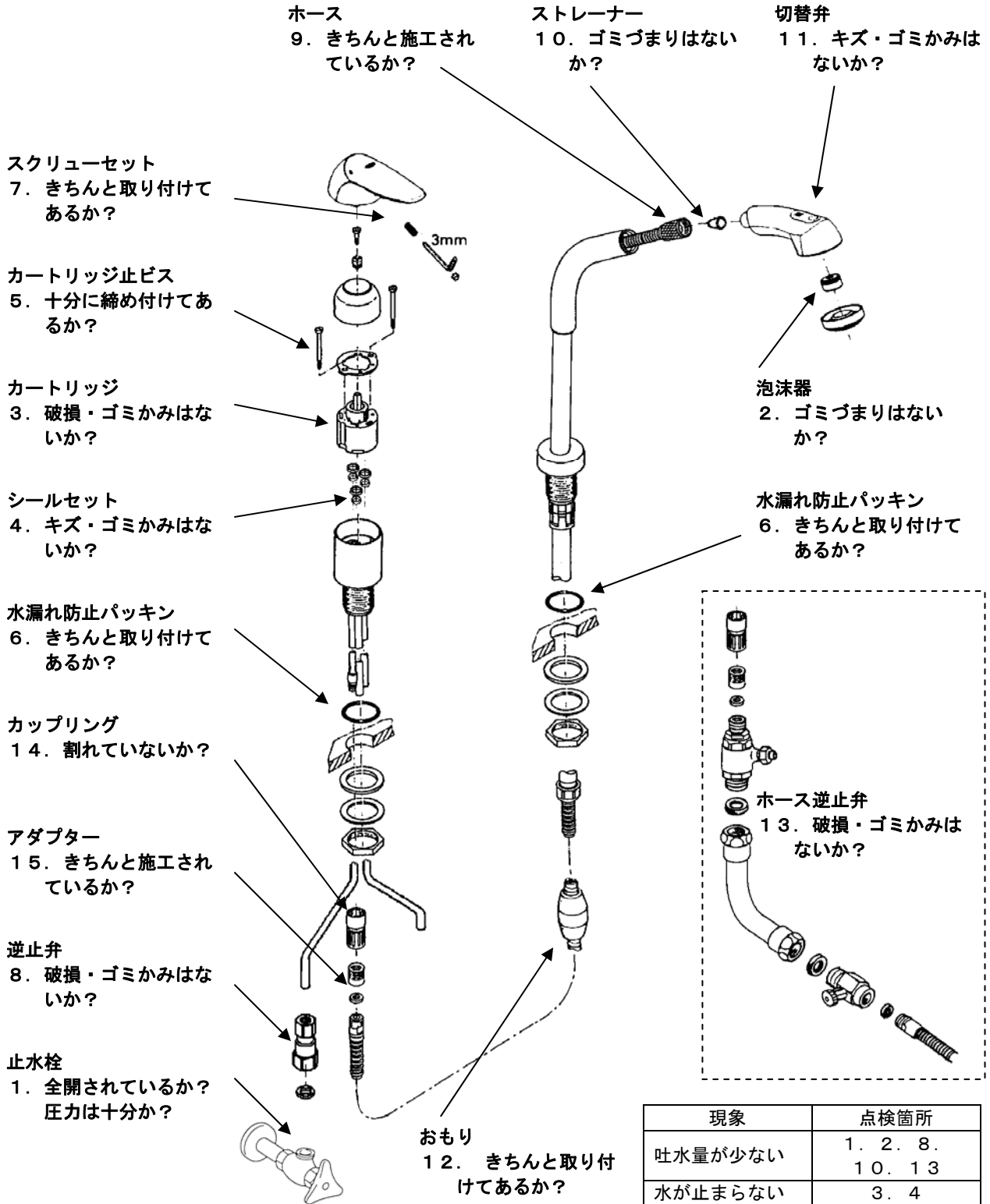
- ①スプレーホルダーの上部ガイド穴にホースのネジ部側を挿入します。
- ②カウンター下側でホースのネジ部にアダプターを10mm六角レンチで取り付けてください。
※パッキンがよじれて水漏れがないよう、確実にねじ込んでください。
- ③アダプターにカップリングを手で確実に最後までねじ込んでください。パッキンは必要ありません。
※オーリングを確認し、必要以上の締付トルクは加重しないでください。
- ④カップリングを本体側継手に差し込んでください。
- ⑤ホースにおもりをはさみ、両側よりビスでねじ込み固定してください。
※ホースをいっばいに引き出した状態で負荷が強いときは、おもりの位置をずらし、ゆとりを作ってください。
※取り付け後、2~3回ホースを出し入れし、ねじれたり引っ掛かりがないことを確認してください。

図3



故障と点検

※取り付け後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。



現象	点検箇所
吐水量が少ない	1. 2. 8. 10. 13
水が止まらない	3. 4
温度不良	1. 2. 3. 8. 10. 13
レバーがガタつく	5. 7
カウンター内に漏水する	6. 9. 14. 1 5
スプレーに切り替わらない	1. 2. 10. 1 1
ホースが引き出せない	9. 12

4. ホース逆止弁の取り付け (図4参照)

寒冷地の場合はホース側に逆止弁を取り付けるようになっております。

- ①ホース逆止弁にアダプターを10mm六角レンチで取り付けてください。
※パッキンがよじれて水漏れがないよう、確実にねじ込んでください。
- ②アダプターにカップリングを手で確実に最後までねじ込んでください。パッキンは必要ありません
※オーリングを確認し、必要以上の締め付トルクは加重しないでください。
- ③ホースのネジ部に水抜栓を工具等で取り付けてください。
※パッキンがよじれて水漏れがないよう、確実にねじ込んでください。
- ④水抜栓に付属のパッキンを使用して、水抜栓ホースの袋ナットを工具等で締め付けます。
※水抜栓ホースを締め付ける際は、ホースがねじないよう注意してください。
- ⑤ホース逆止弁に付属のパッキンを使用して、水抜栓ホースのもう一方の袋ナットを工具等で締め付けます。
- ⑥カップリングを本体側継手に差し込んでください。

カップリング取り付け時の注意

カップリングをねじ込む際は、締めすぎないように注意してください。カップリングが割れて家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ホース取り付け時の注意

ホースを引き出したまま、開閉レバーを開栓し、通水し再度配管中の異物(ゴミ、砂等)を洗い流してください。

図4

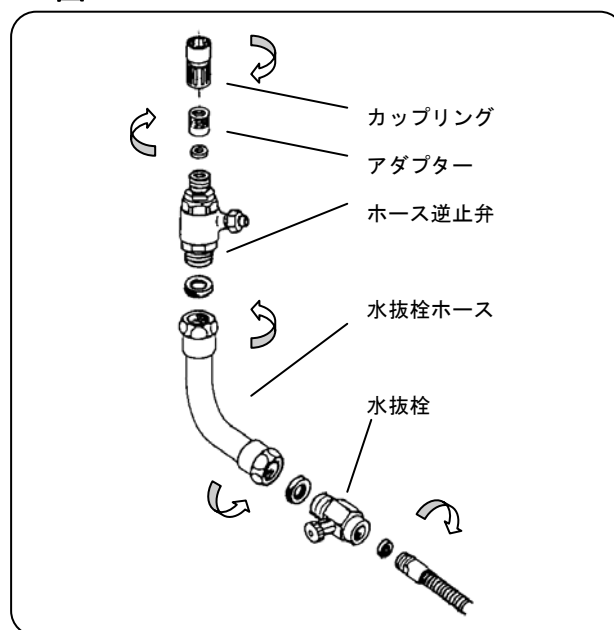


図5

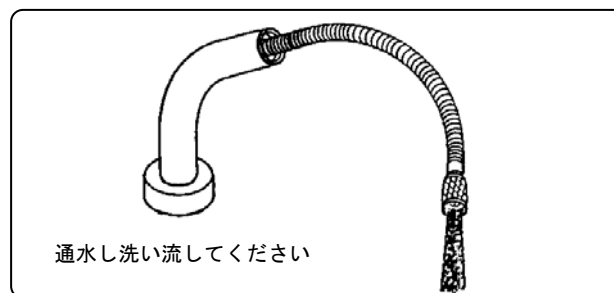
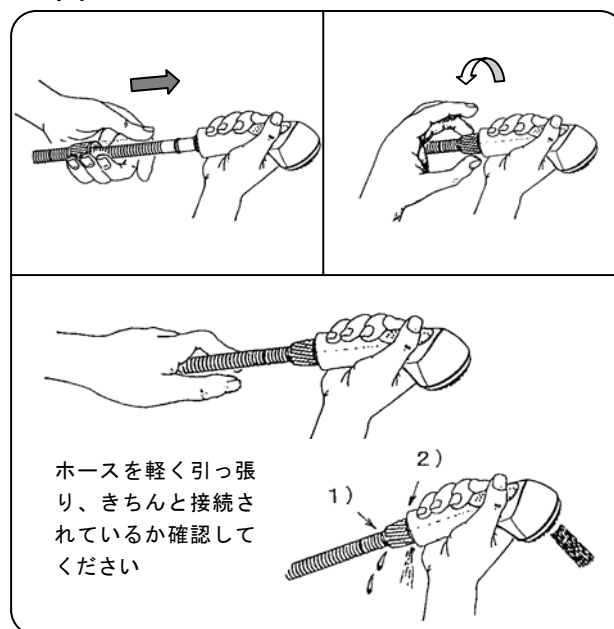


図6



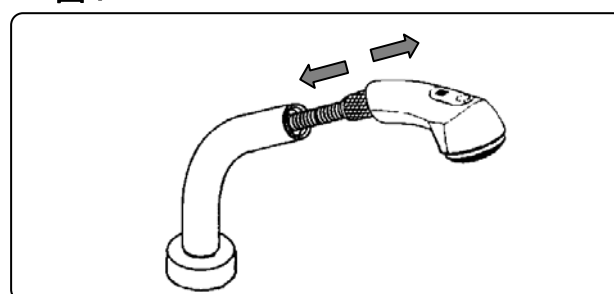
5. スプレーヘッドの取り付け (図6・7参照)

- ①同梱の梱包箱からスプレーヘッドを取り出し、スプレーヘッドの穴にストレーナーが挿入されていることを確認してください。
- ②ホース先端のオーリングがスプレーヘッドにきちんと入るまで差し込んでください。
- ③ホースナットを手で右に回し、完全に止まるまで締め付けてください。
- ④ホースナットがホースの根元に最後まで入っていること、ホースがホース根元で遊びが無く完全に固定されていること、スプレーヘッドを引き出したまま、開閉レバーを開栓し、接続部分から水漏れが無いことを確認してください。
※水漏れがあった場合、1)、2)にゆるみがないか確認し、再度上記の通り組み立ててください。
※ホースナットはスプレーヘッドにしっかり確実に締め付けてください。接続部から水が漏れて、キャビネット内を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

スプレーヘッド取り付け時の注意

取付け後、2~3回スプレーヘッドを出し入れし、ねじれたり引っ掛かりがないことを確認してください。

図7



取り付け後の確認

取り付け完了後、必ず下記の項目を確認してください。

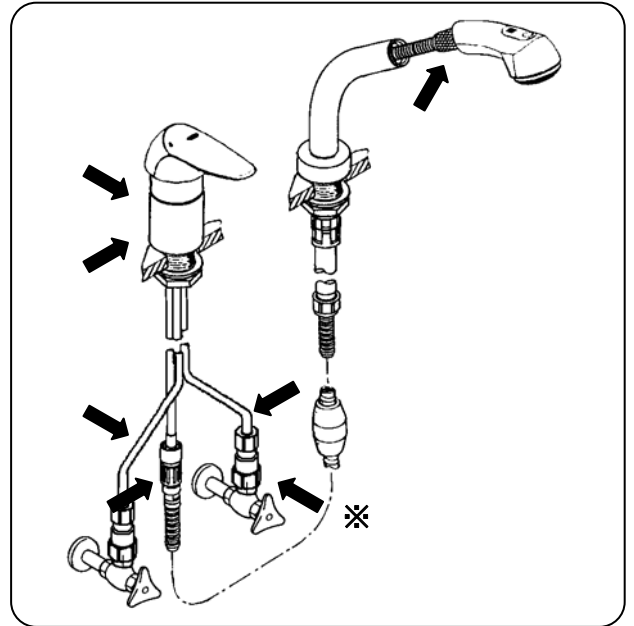
1. 接続部の水漏れ (図8参照)

吐水、止水を数回くりかえした後、図の箇所を点検します。

- 止水栓とアダプターの接続部。
- アダプターと給水・湯給パイプの接続部。
- 給水・湯給パイプと本体の接続部。
- 本体とレバーの接続部。
- カップリングとホースの接続部。
- ホースとスプレーヘッドの接続部。

※特に、この部分は通水後漏水のない事を必ず確認し、万が一漏水が確認された場合パッキンを新品に取り替えた上、再度規定のトルクで締付を行ってください。

図8

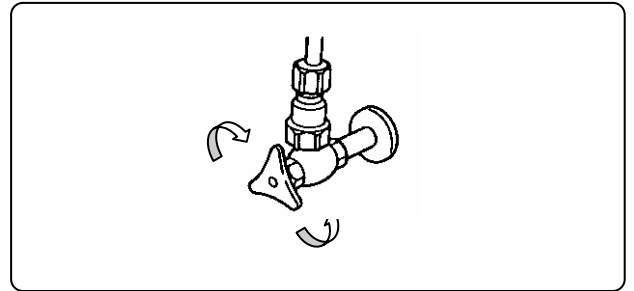


2. 水量・湯温の調節 (図9参照)

お使いいただく現場で、適量・適温が得られるよう、止水栓で調節してください。

※湯水の流量を同程度にすると温度調節がしやすくなります。

図9



3. スプレーヘッドの清掃 (図10参照)

整流器、ストレーナーのゴミ詰りは機能を低下させます。流量が少ない場合は点検してください。

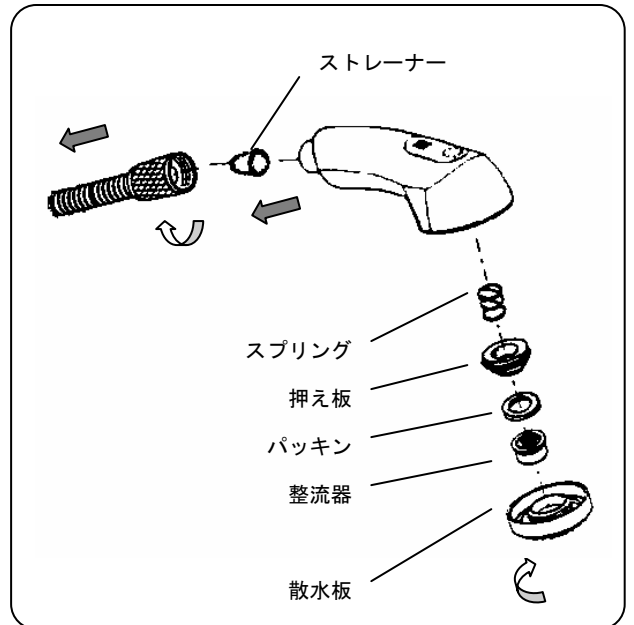
整流器

- ① レバーハンドルを止水状態にしてください。
 - ② 散水板を工具等でゆるめてください。
 - ③ 整流器を手で外し、ゴミを取り除いてください。
- ※ゴミ等が内部に留まることもあります。押え板、スプリングを取り外し、切替ボタンを押しながら通水し洗い流して下さい。スプリングは紛失しないよう特に注意してください。

ストレーナー

- ① レバーハンドルを止水状態にしてください。
 - ② ホースナットを手で緩めてスプレーヘッドを取り外します。
 - ③ ストレーナーを取り出し、ゴミを取り除いてください。
- ※組立の際にホースナットは完全に止まるまで締め付けてください。

図10



4. スプレーヘッドの操作確認 (図11参照)

お使いいただく現場で、快適な操作が得られるよう、確認してください。

※スプレーヘッドを2～3回出し入れし、ねじれたり引っ掛かりがないことを確認してください。

※整流吐水、スプレー吐水の切替ボタンを何回か押し手ください。水量が少ないと切り換わらないことがあります。

図11

